

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.856 2026

2026年5月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL : <https://www.ymcajapan.org/>
発行人／太田直宏 編集人／横山由利亜



とちぎYMCA「グローバルスタディキャンプ in フィリピン」2025

OPINION

「戦争はしない ぼくたちはトモダチだ」 “幸せなら手をたたこう”—名曲誕生の物語—

早稲田大学名誉教授 木村利人さん

私は1959年、大学院生の時にYMCAの農村復興ワークキャンプのためフィリピンに行きました。フィリピンは太平洋戦争中、日本軍の侵略で100万人もが犠牲になった国です。戦後14年の当時はまだ、虐殺の跡地などもそのまま、家族を失った悲しみを抱えた人も多く、日本への憎しみが村中に渦巻いていました。

しかし私が何よりショックだったのは、自分がそれを知らなかったという事実でした。それまで私は、日本はアジア諸国を欧米の植民地支配から解放するために戦っていると教えられていたのです。まさか子どもや女性も関係なく殺した虐殺の加害者だったとは、考えたこともありませんでした。

それでも私たちは1カ月間、村の青年と一緒にトイレ作りなど労働奉仕を続けました。その中で親しくなったラルフ君という青年がある時、「リヒト、ぼくたちは平和な未来を作っていこう。二度と武器をとって戦わないと誓おう。ぼくたちはトモダチだ」と言ったのです。ラルフ君は父親を日本兵に殺された青年でした。

にもかかわらず「赦す」と言ってくれたのです。その日に一緒に読んだ聖書が「すべての民よ、手をたたこう」（詩編47）でした。私も平和を誓い、日本の憲法を紹介したところ、村の人たちも喜んで「態度に示して」（リビングバイブル：エペソ5-8）親切にしてくれるようになったのです。私は帰国後この経験を詩にして、現地の小学生が歌っていたスペイン民謡のメロディーにのせて歌にした。それが『幸せなら手をたたこう』です。

YMCAは今も、多数の国際交流活動をしています。ぜひこれからも、青年たちが歴史をよく知り、理解し合っ
て仲間となり、平和をめざして世界とつながっていく。そんな活動を続けてほしいと思います。

世界は今、かつてないほどに緊張が高まっています。ウクライナ、ガザ、イランなど、力づくの政治が横行し、軍備増強の動きが広がっています。日本でも、平和憲法を変えて武力を強化しようという人たちがいます。が、これは非常に危険なことです。

私は1970年から2年間、ベトナムの大学で教えていた時に、枯葉剤の悲劇を目の当たりにしました。遺伝子を破壊して子孫まで滅ぼす、ジェノサイドです。私はこの時、科学技術を正しく規制して命を守る必要を痛感し、「バイオエシックス（生命倫理）」を提唱しました。今は当時よりはるかに技術が進歩しましたから、本気で攻撃されたら、迎撃しても限界があります。武力はもはや解決にならないのです。仮想敵国を作って武力強化するよりも、まずは攻撃されないよう、対話と協調を徹底して「敵」を作らないことが最強の道です。

▼このストーリーの詳細は
こちらの著書をご覧ください



「キーフさん—ある少年の戦争と平和の物語」
（叡智の海出版）木村恵子著

戦時中私たちは「鬼畜米英」と教えこまれ、「敵を殺せ」と言われてきました。けれども今思えば本当の敵は、ありもしない架空の敵を作り出してあおった、ほんのひとにぎりの大人たちだったのではないかと。私はその後アメリカに住みましたが、愛すべき「トモダチ」しかいませんでした。

私は戦後、『あたらしい憲法のはなし』（文部省発行1947年）を習った時の感動を、今も鮮明に覚えています。武力を捨て、戦争はしない。「世界中の国がよい友だちになってくれるようにすれば、日本の国は、さかえてゆけるのです」。戦争で苦しんだ私たちは、この憲法を心の底から喜び、そして誇らしく思ったのです。

YMCAは今、「みつかる。つながる。よくなっていく。」をスローガンに掲げていますが、ぜひ過去の歴史を未来の平和へとつなげてほしいと思います。悲惨な戦争の歴史と現状に学びつつ、何があっても平和的解決をあきらめない、「平和を作る人」を育ててほしいと切に願っています。 （まとも・編集部）

地域課題に取り組むユースを助成 Y's×SDGs Youth Action2026

地域社会の課題に自ら取り組もうとするユースグループを、ワイズメンズクラブとYMCAが最大20万円の助成金等によってサポートする「Y's×SDGs Youth Action」。2022年から隔年で公募しているこの助成プロジェクトに、今年はYMCA内外から24組の応募がありました。3月22日にはオンラインによるグループ選考会が行われ、各チーム5分間ずつ企画の概要を発表。選考委員による審査を経て、下記の10グループが2026年度の助成対象に選ばれました。

選考にあたったワイズメンズクラブ国際協会東日本区理事の山下真さんは「若者たちの熱意あるプレゼンに、未来の希望を感じた。いずれも秀逸で、10チームに選考するのが心苦しかった」と語っています。各チームは5月～12月に活動し、来年3月に報告の予定です。

2026年のチーム名と企画概要

- ① Aile for Period **小さな月経博物館**：月経について学ぶ教材を開発、製作し、全国の学校や家庭に届ける
- ② 一社) Reaching Zero-Dose Children **外国ルーツを持つ子どもたちへの調査**：保育園における調査および保護者との交流
- ③ 国際ボランティアサークルひつじぐも **海を守る心を育む、持続可能な未来を目指して**：水族館等で海洋ゴミ問題を体験
- ④ 学生団体Re:Work **Re:Work Equity Project**：経済分野でのジェンダーギャップ解消のためのイベント開催
- ⑤ 任意団体あいきびと **過疎地域の子どもたちに「居場所」と「未来を拓く力」を届ける**：多世代交流事業の開催
- ⑥ キベラはみ出しチャレンジチーム **Kibera Street Action 2026**：ケニアのスラムの高校生世代がDIYで自分の場所を作る
- ⑦ MEZASE!!ルール **日本伝統をアップサイクルで復活**：日本の伝統工芸品制作を子どもたちが体験
- ⑧ 大阪南YMCA **373(ミナミ)ほっとスペース**：世代、国籍を越えた居場所の提供および食事の提供
- ⑨ 広島YMCA国際ユースリーダー **灯火が紡ぐ未来の縁プロジェクト**：折り鶴の再生紙によるオリジナル行燈の制作
- ⑩ ボーイスカウトふるさとほけん隊 **奥能登の子どもたちのためのサードプレイスと体験教育の提供を通じた復興支援事業**：被災した珠洲市の子ども向けプログラム

>>> 詳細はこちら

<https://sites.google.com/japanymca.org/youth-action2022/>



中東情勢について 世界YMCAがオンライン会議

2月末から混乱が続く中東情勢を受けて3月16日、世界各地のYMCA代表者ら100人がオンライン会議を行いました。会議には、国際赤十字・赤新月社連盟の中東担当ディレクターも参加。「複数の紛争が連鎖し、拡大している」と現地の危機を語るとともに、「どのような状況下でも、すべての人々の尊厳を守ることを目指さねばならない」と訴えました。

周辺地域のYMCAからは以下の近況が共有されました。

▼レバノンYMCAのイッサム・ビシャラ総事は、

850人が死亡、85万人が避難しているレバノンでは、エネルギーと医療物資の深刻な不足が続いています。YMCAは地域医療センターに50万個以上の医薬品パックを供給したほか(=写真)、避難者に毛布や食糧、水、衛生キット、粉ミルクやおむつなどを提供。今後は心のケアのため避難所の子どもたちを対象に、創作アートプログラムも予定しています。



▼東エルサレムYMCAのピーター・ナシル総事は、

「どんなに絶望的な日々であっても、私たちは正常な日常という目標に到達できると信じ、未来の世代のために笑顔でバトンを渡す義務があります」と語り、サイレンや爆撃にさらされる日々の中、トラウマを抱えた子どもや若者への精神的ケアの提供を続けていることが報告されました。

▼ヨルダンYMCAの理事カミル・ラフィディ氏は、

「各国のロケット弾がヨルダンの空域を飛び交っている」と言い、エネルギー備蓄が著しく減少している中、YMCAはソーラーパネルの設置を始めたこと、また若年層への精神的・社会的支援の提供の必要が生じている状況について語りました。

世界YMCA会長でレバノン出身のソヘイラ・ハイエク氏は、「今、危機に瀕しているのは、全世界の社会的、経済的、道徳的な結びつきです。YMCAは、暗闇に包まれつつある世界において、これからも希望の光であり続けなければなりません」と会議を締めくくりました。また日本YMCA同盟はホームページ上に声明を発表。あらゆる軍事行動の即時停止と、対話による解決を要請しました。

詳細はこちら ▶ <https://www.ymcajapan.org/topics/20260309/>



“卒業”してもYMCAとつながって 「アルムナイ コミュニティ」に ご登録を

YMCAの学校を卒業した方、ボランティアリーダーをしていた方、YMCAで働いていた皆さまはぜひ、「YMCAアルムナイ コミュニティ」にご登録ください。

「アルムナイ」とは、卒業生や同窓生を意味する言葉です。長い人生のライフステージに合わせて未永くYMCA運動に関わっていただきたいと、2025年に制度を立ち上げました。

ご登録いただいた方には定期的にメールを配信し、全国YMCAの近況やイベント情報、採用情報などをお届けしてまいります。

登録者は、子育てが一段落してからスタッフになった方や、転居後に別のYMCAの会員になられた方など、さまざまです。ぜひお気軽にご登録ください。

詳細は下記サイト/二次元コードから



https://www.ymcajapan.org/saiyo_list/alumni/

東山荘5号館 リニューアルしました

昨年の6号館リニューアルに続き、5号館の全面リニューアルが完了しました。

5号館は、芝生のグラウンドに面した鉄筋平屋で、6人部屋が20室と講師室があり、林間学校など大勢の団体に愛用されてきた宿舎です。

今回のリニューアルでは、「御殿場市総合景観条例」に沿った外壁塗装とし、本館および6号館と同様に茶色をベースにした、森の中のYMCA東山荘らしい景観となりました。また、外壁の一部には、YMCAのブランドカラーを取り入れ、「みつかる。つながる。よくなっていく。」のローガンとロゴもデザインしています。

室内は、トイレや洗面台の水回り、照明のLED化、壁紙、タイルカーペットなどすべてを一新しました。玄関のドアはスライド式に変更し、しばらくの間は二段ベッドではなく布団を敷いてご利用いただくなど一部の仕様も変更しましたが、外観も内観も見違えるほどに新しくなり、以前よりもさらに快適にお過ごしいただけるようになりました。

皆様のご来荘をスタッフ一同心よりお待ちしております。

YMCA東山荘 沼田 光隆



木調の外壁にブランドカラーをとり入れた5号館。昨年リニューアルした6号館とも呼応し、付近一帯の景観が新しくなりました